

「池子の森を訪ねて」 佐藤智子(本研究所副理事長)

10月25日の午後、「池子の森の見学会」に参加しました。遅ればせながら少し報告と感想を。この見学会の主催者は日本ジャーナリスト会議(JCJ)神奈川支部。(JCJについては、<http://www.jcj.gr.jp/>)

午後2時に京浜急行「六浦」駅に集合。隣の神武寺駅まで歩き、その後、近くの池子会館で質疑・交流。参加者は二十数名でした。池子では今、新たに800戸の米軍住宅を建設する計画がもちあがっていて、歩きながら池子問題を考えようという企画です。

池子の森は、1938年に旧日本海軍が住民を追い出して弾薬庫とし、戦後は米軍が接收。1985年に「池子弹薬庫」から「池子住宅地区および海軍補助施設」に用途変更され、その面積は約288ヘクタール(逗子市域が約252ヘクタール、横浜市域が約36ヘクタール)。そのうち逗子市側の約86.5ヘクタールが池子住宅地区になっています。

逗子市民は何度も住宅建設反対の意思表示をしましたが、1987年、国は建設工事に着手し、1998年に854戸の住宅が完成しました。かかった費用は住宅と周辺施設を合わせて約850億円。(いわゆる「思いやり予算」)現在、約3300人が住んでいます。

新たな計画は横浜市域(金沢区六浦)に建てようというものです。六浦駅から少し歩くと、基地の東端にさしかかり、そこからしばらくは道路が基地との境界線。フェンスの向こうに見えるのは深い緑の木々。池子の森は、戦前の弾薬庫建造以来、一般の立ち入りが禁止されたことで皮肉にも豊かな自然が残り、小動物や昆虫類など約80種類の生息が確認されているそうです。神武寺駅近くで少し坂を登ると、正面に基地のゲート、その奥に野球場などの施設、右手に住宅が見えます。

私はこの地をはじめて訪ねましたが、参加してよかったです。自分の目で見て、場所をイメージできるということは、ものを考えるうえでけっこう大切なことだろうと思います。参加者のなかには、かつての反対運動に参加された人、いえいえ、戦前から池子をずっと見てきた方もいらっしゃいました。私は遠方(西東京市)からよく来たなと歓迎(?)されたり。

池子の問題はそれだけで解決するものではありません。横須賀につながり、アメリカにつながっています。神奈川県に事務所を置くNPOとして、地域とどうかかわっていけるか、ずっと考えていた私は、足元から考えられる問題があるじゃないかと、妙に納得して池子の森をあとにしました。

最後に、どなたか今度、横須賀に行かれるおりは、ぜひ私を誘ってください。よき「案内人」を求めます。それではまた。